東松島市と東北文化学園大学の協同に基づく連携プラットフォーム

グランドデザイン案

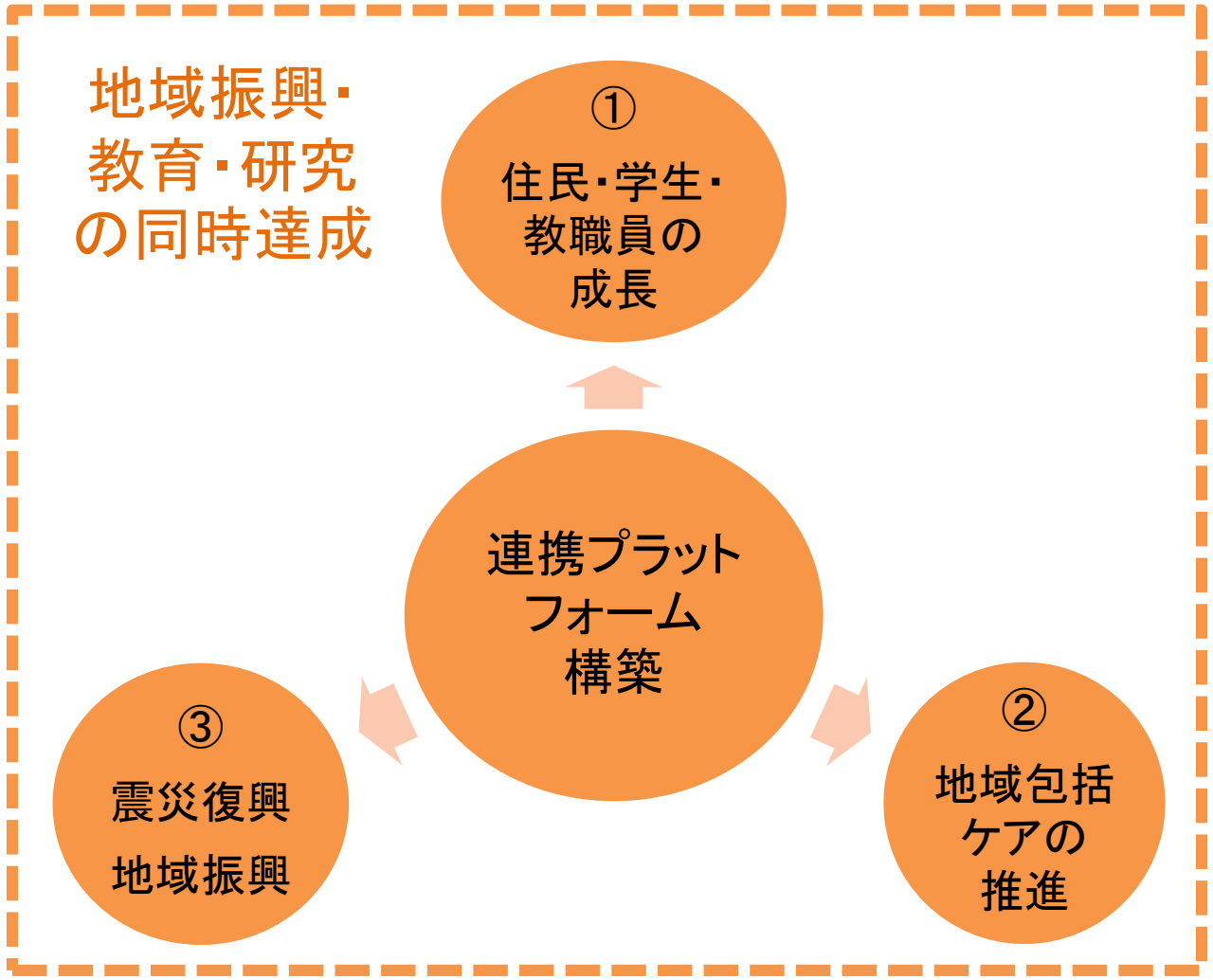
本日の趣旨

【背景・経緯】

- 東松島市（以下「市」）と東北文化学園大学（以下「本学」）の連携：2016～
  → 保健医療福祉の領域を中心に展開中
- 包括連携協定の締結：2017 → 市・本学間連携の基盤形成
- SDGs未来都市計画（全世代グロウアップシティ東松島）始動：2018
- 市と本学の連携拡充に向けた協議：2019.5.15 → 大枠で合意
- 本学2020年度教育課程の編成に係る協議：2019.5.30 → 教育領域における連携

連携プラットフォームのグランドデザイン案の説明・討議

連携プラットフォーム構築により、以下の成果が期待できる



①住民・学生・教職員の成長

- 地域での教育、ボランティア、インターンシップの実践は学生が「地域のリアル」を学ぶ機会となる。
- 連携プラットフォームに係る諸活動のプロセスは、住民・学生・教職員の成長につながる。

②地域包括ケアの推進
③震災からの復興・地域振興

- 連携プラットフォームに係る諸活動は、住民の生活支援や震災復興・地域振興に資する。
- 市に関連する領域・テーマの研究活動・成果を、地域包括ケア推進、震災復興、地域振興に活用できる。
- 会議・取組への参画を通じて、教員の専門性を地域包括ケア推進、震災復興、地域振興等に援用できる。
- フォーラム等の企画・開催の協同等により、地域振興の一助とすることが出来る。

連携プラットフォームのグランドデザイン案の概要

- 3要素で構成する。
  - フィールドA／フィールドB／評価（評価の対象：フィールドA・Bにおける諸活動）
- フィールドA　→　主として教員が関わる領域
  - A－1　市に関連する領域・テーマの研究：実績＋提案
  - A－2　教員の専門性を活かした、市の取り組みへの参画：実績＋提案
- フィールドB　→　教育、まちづくり等において学生と教職員が関わる領域
  - B－1　市や住民との連携・協同に基づく教育（ボランティア教育を含む）：実績＋提案
  - B－2　まちづくり（ボランティア、インターンシップ）：実績＋提案
- フィールドA・Bは、実績（既存の取組）と提案（市との協同を視野に入れた計画等）から成る。
- 評価
  - 当面は2030年までを目途としつつ、その後につなげる持続性を意識する。
  - 各フィールドの項目毎に具体的な評価指標を設定し、PDCAサイクルを回す。
  - 評価は、市と大学が協同で定期的・継続的に行う。

グランドデザイン案の構造

評価
- 当面は2030年までを目途としつつ、その後につなげる持続性を意識する。
- 各フィールドの活動毎に具体的な評価項目と評価指標を設定し、PDCAサイクルを回す。
- 評価は、市と大学の協同で定期的・継続的に行う。

市と本学の協同に基づく
連携プラットフォーム
全世代グロウアップシティ
東松島の具現化

フィールドA
地域包括ケアシステムの推進
・スライド6～11

フィールドB
「人育て」と「まちづくり」による
レジリエンスの醸成
・スライド12～15

実績	提案
A－1　研究 ・復興再生ビジョンに対応する3研究 ・スライド6	研究領域・テーマの拡充 （ビジョン具現化への貢献） ・スライド7～9
A－2　市の取り組みへの参画 ・地域包括ケア推進会議等の委員 ・スライド10	市と本学の協同による フォーラム等の企画・運営 ・スライド11
B－1　教育 ・多職種連携教育、専門職養成教育 ・ボランティア教育を含む地域福祉教育 ・スライド12	実習・キャリア教育を含む 2020年度連携科目（29科目） ・スライド13
B－2　まちづくり ・ボランティア ・スライド12	インターンシップ ・スライド14

実績

フィールドA－1　現在進行中の研究の概要・実績

No.	テーマ	復興再生ビジョン「5つの柱」※への対応	主担当、関係協力者	開始
1	地域包括ケアシステムにおける多職種ネットワーク	連携、認知症ケア、生き方	加藤 おいおいの会	2017
2	学生のまちづくり参画	支え合い、健康増進、認知症ケア、生き方	野﨑、学生 住民（あおい地区など）	2017
3	住民参加型見守りネットワーク支援データベースの構築	支え合い、連携、生き方	藤木、野﨑 住民（あおい地区など）	2018

※5つの柱：別添資料p.2参照

1. 地域包括ケアシステムにおける多職種ネットワーク

- 多職種ネットワーク「おいおいの会」との協同により、地域連携の促進・地域包括ケアの拡充を図っている。

2. 学生のまちづくり参画

- 日常的交流（介護予防活動、見守り等）の企画・実践と効果検証により、地域高齢者の健康増進、支え合いを支援している。
- 個別支援（訪問、思い出語り等）の実践と効果検証により、地域高齢者の生活支援を図っている。
- 震災復興のまちづくりの一助となっている。

3. 住民参加型見守りネットワーク支援データベースの構築

- あおい地区データベースを構築し、活用されている。今後それを市全域に汎用化し、住民参加型の見守り支援に活用する。

フィールドA－1　新規研究の概要・協同のお願い（1）

No.	テーマ	復興再生ビジョン「5つの柱」への対応	主担当、関係協力者	開始
1	認知症の人を支える家族の負担感	認知症ケア、生き方	香山、津田、北川	2019
2	認知症ケアリーダー養成	認知症ケア、支え合い、生き方	香山 市保健師、住民	2019
3	多職種協働による地域包括ロービジョンケアシステムの開発	連携、支え合い、生き方	小野、東北大 地域包括支援センター等	2019

1. 認知症の人を支える家族の負担感

- 研究目的：研究成果をもって、認知症の人の家族が負担感を軽減させる具体的支援につなげる。
- 協同のお願い：市の関係者、認知症の人のご家族に研究協力をお願いしたい。

2. 認知症ケアリーダー養成

- 研究目的：住民参加型認知症ケアの仕組み作りの一助とする。
- 協同のお願い：市保健師との協同の下、当該事業の企画・運営に参画させていただきたい。

3. 多職種協働による地域包括ロービジョンケア※システムの開発

※用語：別添資料p.3参照

- 研究目的：市内におけるロービジョン※の人の生活を支援するシステムを開発し、具体的支援につなげる。
- 協同のお願い：市の関係者、地域包括支援センター等に研究協力をお願いしたい。

提案

フィールドA－１　新規研究の概要・協同のお願い（２）

No.	テーマ	復興再生ビジョン「５つの柱」への対応	主担当、関係協力者	開始
4	地域高齢者（７５歳以上）のフレイル予防と医療・介護費用	健康増進	吉田 市担当課	2019
5	医療福祉の効率的享受のための集住等の住まい方	生き方、連携、支え合い	山本 市担当課	2019

4.　地域高齢者（７５歳以上）のフレイル※予防と医療・介護費用

※用語：別添資料p.3参照

- 研究目的　①市内７５歳以上高齢者のフレイル予防が医療・介護費用に及ぼす影響を調べる。②フレイル予防による医療・介護費用抑制の検討に資する。
- 協同のお願い：フレイル予防活動の実施・評価、医療・介護費用データの解析等について、実行の可否を含めて協議させていただきたい。

5.　医療福祉の効率的享受のための集住等の住まい方

- 研究目的：地域包括ケアの基本理念に基づく住まい方のモデルを提案する。
- 協同のお願い：モデル構築に向けた基礎データの収集※に係る協力を仰ぎたい。

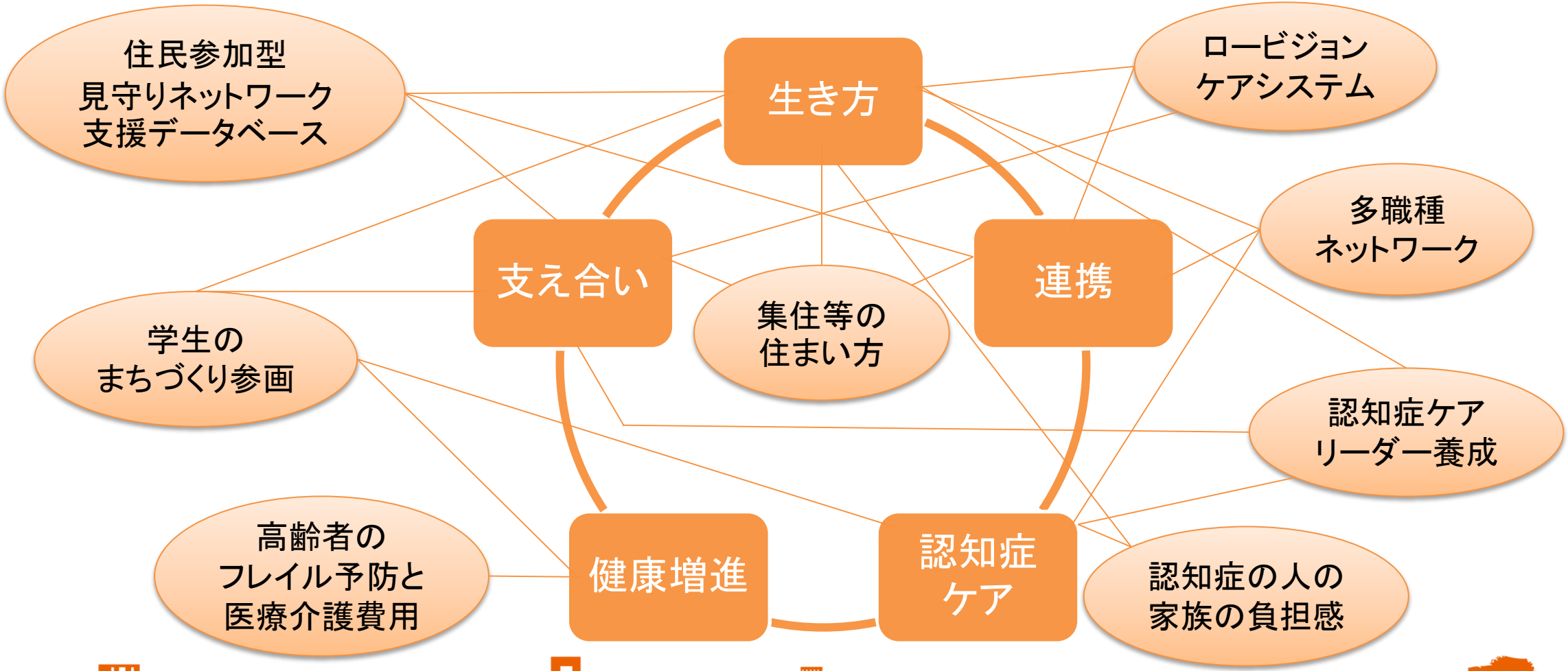
※在宅看取り・在宅療養の実態調査

※高齢者の住み移り（入院等を含む）の追跡調査

※独居高齢者世帯・高齢者のみ世帯等のすまいと行動範囲の把握（社会的な居場所が提供されている好例や引きこもりがちな条件の洗い出し等）など

ビジョンの「5つの柱」とフィールドA－1（研究）の関係

フィールドA－1の研究活動を通じて、市の地域包括ケア推進に貢献する



実績

フィールドA－2（市の取り組みへの参画）

会議等への参画を通じて、市の地域包括ケア推進に貢献する

	会議等	参画者	年度
基本理念策定	東松島市医療福祉サービス再生復興ビジョン策定協議会　委員	加藤（座長）、吉田、野﨑	2016
	東松島市医療福祉サービス再生復興ビジョン策定協議会　3部会オブザーバー	加藤、野﨑	2016
進行管理	東松島市地域包括ケア推進会議　委員	加藤	2017～
	在宅医療・介護連携協議会　委員	加藤	2017～
	地域支え合い推進委員会　委員	野﨑	2017～
フォーラムでの協同	地域包括ケアフォーラム　基調講演	加藤	2017
	地域支え合いフォーラム　コーディネーター	野﨑	2018
進行管理（認知症ケア）	認知症事業打合せ会議　オブザーバー	香山	2018～
	認知症ケア連携会議	香山	2019～

提案

フィールドA－2（市の取り組みへの参画）の可能性
市と本学の協同によるフォーラム等の企画・運営等

【例】 東松島市で日本医療・病院管理学会の例会を開催する。

- 可能な範囲で市のお力添え（後援等）を頂きたくお願い申し上げます。
- 例会の概要
  - ✓ 日程：2020年6月（日時は調整中）
  - ✓ 主催者：日本医療・病院管理学会
  - ✓ 担当者：加藤由美（当該学会評議員、主担当）、山本和恵（当該学会会員）
  - ✓ 協力者：多職種ネットワーク「おいおいの会」ほか
  - ✓ テーマ：地域での看取り（仮題）
    - ➢「おいおいの会」 → 看取りを支える多職種連携の実態
    - ➢ 山本 → 慣れ親しんだ地域で人生を全うできる「住まいの在り方」考 など

実績

フィールドB－1（現在進行中の教育）
地域関係者との連携に基づく教育は、学生が「地域のリアル」を学ぶ貴重な機会となっている

- **多職種連携教育**
  - 「おいおいの会」の月例研修会に有志学生を参加させ、地域における多職種ネットワーク活動の実践的理解を図っている。
- **専門職養成教育**
  - 保健福祉学科では、社会福祉士養成教育の一環として市内の特養ホーム施設長をお招きし、地域における高齢者福祉の実際について講義いただく授業を設けている。
- **地域福祉教育（ボランティア教育を含む）**
  - あおい地区や市内の各種イベントに、有志学生がボランティアで参加している。
  - 地域の人々との日常的交流を積み重ねてきた学生は、その地域のニーズを実感をもって理解出来るまでに成長を遂げている。

提案

フィールドB－1（教育）の可能性

地域を舞台とした教育実践により、教育と地域貢献の同時達成を図る

2020年度の教育課程における市と本学の連携科目

→　29科目※（2019年6月現在）　※科目名：別添資料p.4参照

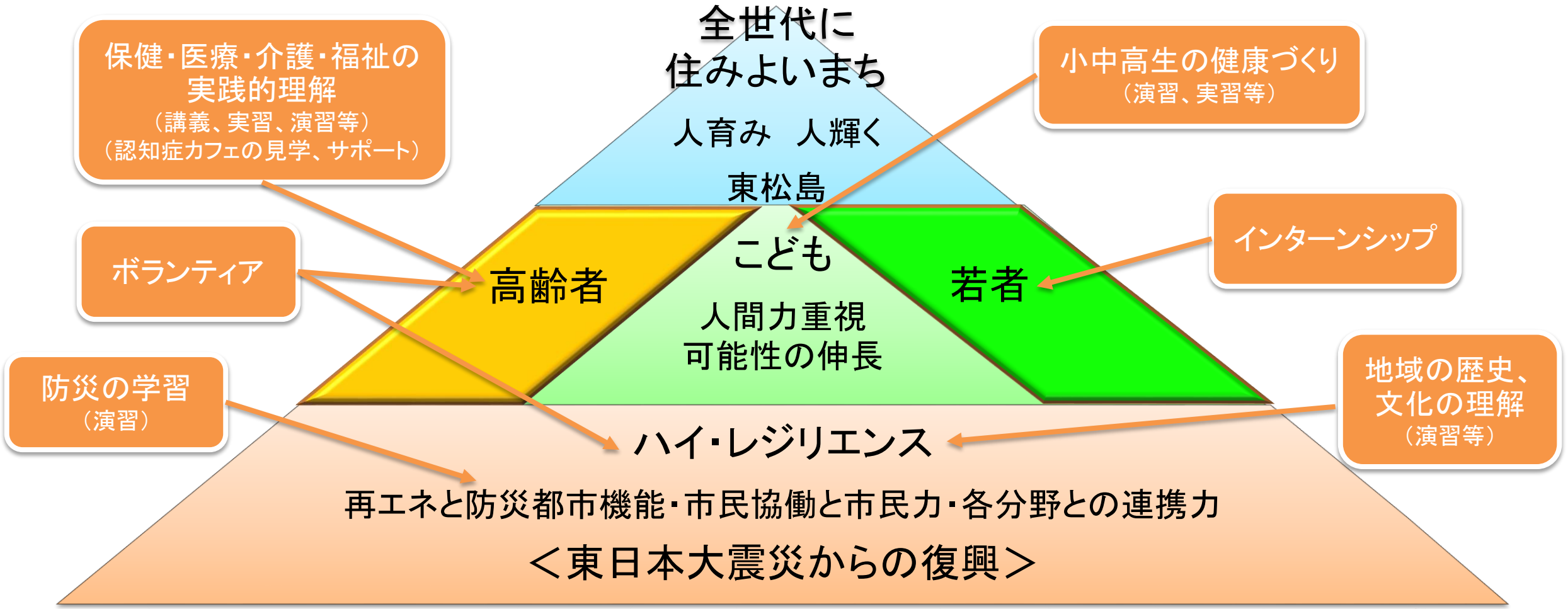
- 医療福祉学部
  - リハビリテーション学科　4科目／看護学科　4科目／保健福祉学科　13科目
- 総合政策学部
  - 総合政策学科　2科目
- 科学技術学部
  - 建築環境学科　6科目

提案

フィールドＢ－２（まちづくり）の可能性
地域に根差したキャリア教育の実践を通じて教育と地域貢献の同時達成を図る

- インターンシップ
  - 本学の窓口：キャリアサポートセンター（キャリサポ）
  - 当面の課題
    - ① インターンシップ受け入れ可能な企業等の開拓
      - → 可能な範囲で市のお力添えを頂きたくお願い申し上げます。
    - ② インターンシップ実施体制の整備
      - → 市内における通勤拠点の確保（実習教育にも共通する課題）

全世代グロウアップシティ東松島における
フィールドB（「人育て」と「まちづくり」によるレジリエンスの醸成）



※オリジナルの概念図：別添資料p.5参照

連携プラットフォーム構築・展開のロードマップ（案）

- 6～8月：第一期計画の策定
  - 上旬フィールドA・Bに係る諸活動の計画策定
  - 活動毎に評価枠組みの設定
- 8月下旬？協定書（仮称）の締結

- SDGs未来都市計画（全世代グロウアップシティ東松島）完成年度

2019 構築
- 第一期計画策定
- 協定（仮称）締結

2024
- 第一期の成果・課題の確認
- 第二期計画策定

2029
- 第二期の成果・課題の確認
- 第三期計画策定

2030 以降
- 第三期の成果・課題の確認
- 次ステージへの対応

協同で年次点検・評価

協同で年次点検・評価

協同で年次点検・評価